



2006

第64号



**発行 / 交友プランニングセンター「ふぉーらむ」編集部**  
 〒651-0096 神戸市中央区雲井通5-3-1 サンパルビル2F  
 TEL(078)221-4886 FAX(078)221-4887  
 E-Mail kpc@koyu-p.co.jp

**高砂プランニングセンター**  
 〒676-0066 高砂市高砂町鍵町772番地  
 TEL(079)442-3426 FAX(079)444-2117  
 E-Mail takaei@koyu-p.co.jp

**大阪プランニングセンター**  
 〒530-0044 大阪市北区東天満1-12-13 K Sビル3F  
 TEL(06)6242-8875 FAX(06)6242-8876  
 E-Mail osaka@koyu-p.co.jp

### 自費出版体験記

## パソコンの妙味が自費出版へ

小池 真佐子



『お父さん お母さん  
 すてきな人生をありがとう!』  
 小池真佐子著  
 B六判、一四二頁、口絵カラー、並製本  
 平成十八年七月一日発行

交友プランニングセンターである、と感謝している。

このたびは、冊数を押さえ、懇意にお付き合いのあるお方に、配布させていただいた。それで、身勝手なこと、甘えさせて下さるので、押し付けた形の本だが、読後感や、「ベスト三」、あるいは、「ベスト五」を、選んでいたことを依頼した。

結果、五十一編のエッセーから、二十四編の題名が選出された。そして、どれも甲乙つけ難いが、あえて選ぶなら、と書いて下さったのもあり、お世辞であろうとも、書き手には、うれしい言葉だ。

ランキングの内容は、掲載していないが、友人、親族、私とが、読後の感想や、ベスト選びを、ともに楽しめたことは、大変、有意義であった、と言んでいる。

世は、パソコン時代になった。が、私は、ワープロで十分と、満足していた。ところが、電気店のワープロコーナーが、隅っこに追いやられ、まん悪く故障したワープロは、「今度、故障したら、部品がない」と、言い渡された。

パソコンの時代になっているのに、なかなか、パソコンを購入しない私に、「パソコンは人生を変えるよ」と、提言してくれた人がいた。ワープロの故障を機に、提言してくれた人に従い、パソコンを購入した。そのパソコンに触れた当初は、理解できなくて、パソコン操作に四苦八苦し、情けなかった。しかし、



## メモリアルサービス



太田 悠

『赤い絆』  
太田 悠著  
B6判、206頁、カラーカバー  
上製本  
2006年8月28日発行

わたしが過去に見たり、聞いたり、経験したりした事が、空間に無数漂っている気がしてならない。それらの浮遊物をひよひよいと掴み取って虚構で結んだら小説ができないだろうか。私はそんな不純な動機で文章教室に通い、同人会に首を突っ込んで、ミス터리小説のショートショートを書くようになった。

福本は同じ高校、大学を卒業して都内の貿易会社に就職した親友だった。会社対抗のテニス大会の応援に行つて、後輩の敏子と有紀を知った。二人は応援席に座つて黄色い声を張り上げていた。敏子は竹久夢二が描いたような色白美人で潤んだ大きな瞳をしている。有紀は短い髪でテニスで鍛えた小麦色の肌が魅力的だった。二人は白ちゃん、黒ちゃんなんて呼び合っていた。

四人は何度か都内の観光地をめぐらうち、二組のアベックが肩を並べるようになった。福本と有紀、私と敏子が恋に落ちて数年がたった春先だった。私はタイ支店に二年間の出向を命じられ、成田空港のロビーで同僚たちに見送られた。出発ロビーから出る間に敏子が大きな目に涙を浮かべて近づいてきた。  
「毎月三回ほどはお便りください。二年は長いけど待つてるわ」

「分かっている、君の写真を眺めて頑張ってくるよ」

二人が将来を誓った言葉を残して別れた翌年の春だった。福本と敏子の結婚を知らせる招待状がタイ支店に飛び込んできた。敏子から来る便りには変わらない友情が述べられていた。

「お前の相手は有紀じゃなかったのか」と福本の非礼に反発しながら、敏子に裏切られた私の内心に悪意が渦巻いてきた。

私は二人に結婚したわけを糾したい気持ちに駆られて過ごした。帰国を半年後に迎えた秋の夜半に敏子の涙声を受話器に流れた。

「西嶋さん、ごめんなさい。わたしを許して」

福本の交通事故死を告げながら嗚咽する声が聞こえてくる。福本が飲酒運転中にガードレールを飛び越えて川底に転落したらしい。出勤前に夫婦喧嘩したなどと事の成り行きを語ってくれる。

「自分がしつかりしなくっちゃ、あなたが気を落とさないでください。葬式などは会社に任せて乗り越えてください」

私は激しい憤りの気持ちに反する優しい言葉を吐いていた。  
「西嶋さんは帰ってくれないのね。どうしよう」

私は敏子に未練を残しながら帰国しなかった。最愛の福本を亡くした深夜、私に電話してくる敏子

の気持ちが分からない。

私は無事二年間のタイ支店勤務を終わって自宅マンションに帰ってきた。日本の生活が始まった最初の土曜日、青い空に飛び交う黒いカラスの群れにかすかな妖しさが漂っている。ポストに投函された郵便物の目を通して、一通のダイレクトメールを取り上げた。

有紀に連絡して福本の墓参りをしなくてはならない。敏子に都合を聞いて日時を決めたら喜んでくれた。敏子が福本と愛を営んだ自宅には行きにくい。墓地の名前を聞いて管理する事務所で待ち合わせした。元気を取り戻した敏子に案内されて墓に向かった。あれ、敏子が十数メートル先を指差して膝を崩してしまった。白いワンピースに身を包んだ妙齢の女が墓石に頬を寄せている。緑の供花を手に持つて線香の煙に包まれている。  
「敏子、どうしたのよ。お知り合いの方でしょ」

有紀の言葉に敏子は返事をしなかった。大きな目に涙があふれて青白い顔が引きつって荒い呼吸を吐き出している。

あの女だったのね。西嶋さん、悔しい！

敏子の悲鳴を聞いて横を通りすぎる女に軽く頭を下げた。有紀が管理事務所に敏子を連れ戻してタクシーを呼んでくれた。私は自宅マンションに戻ってダイレクトメ





# 自費出版体験記



## 塚本 孝

『新しい天と地を見たとき』  
 - 塚本淑子遺稿集 -  
 塚本淑子著  
 塚本孝・塚本潤一編集・発行者  
 発行所 日本キリスト教団西宮教会出版委員会  
 A5判、350頁、口絵カラー  
 写真多数、ガンダレ製本  
 2006年6月15日発行

### 原稿の制限

生涯を伴にした妻、子供たちを45年間育ててくれた母親が40数年に書いた文章を全部集めてみると頁数にしてみて1千頁以上になる。これでは長すぎる。しかし夫々の原稿に特色がある。せめて1/3に削減しようと試み、もう一度読み返し、吟味した。それなりに捨て難い味をもつ。頒布の範囲から出るだけ一般性のあるものだけに限定した。

### 編集方針の確立

多くの原稿を発表順に並べず、読者に馴染みやすくするため「幼き日々」など自分史風に並べ替えた。そのために省かれたり、新たに加わったものもあった。そして編集に携わった人々の意見も取り入れた。

### 題名を決める

かくして原稿を限定し、編集してみたら、インパクトのある、この本のタイトルとして『新しい天と地を見たとき』（聖書のヨハネ黙示録21・1と「賛美歌21」の598番から）を選んだ。信仰を全うして神さまのもとに召された人々が天上で神さまと共に礼拝を守り「永遠のやすらぎ」の中に彼女もあることを信じて決めた。

### 表紙のデザインを決める

経費の問題もあるが、表紙は専門のデザイナーをお願いした。た

### だ表紙のイメージとして、彼女の

紀行文にあるシャルトルのステンドグラスの「青」と、彼女の愛したニッコウキスゲの黄色を配して頂ければと希望した。たまたまデザイナーの方がシャルトルのステンドグラスをご自分で撮って来られていたのが有り、それを使っただけの表紙が出来た。校正恐るべし

### 校正ほど怖いものはない。校正

内容は明確に指示すること。正確に訂正者にこちらの訂正の意志が伝わるようにしなければならない。また変換ミスによるものの発見、ついづらられて読んでしまい、校正箇所を飛ばしてしまうこともままある。本に刷り上がってしまったら後でミスを見付けても手遅れだ。4人の多忙で有能な方々をお願いして4回校正した。大変な作業だった。しかしこれが本の死命を制すると思つて校正に念を入れた。またこれに耐えて下さった、御社のA氏の気軽な対応に助けられる。

### 差別語の訂正

40数年の間に書かれたものなかには、現代では通用しない差別語や、不快語が何気なくある。特に注意して訂正した。

### 言葉の統一

また長年にわたって書かれた文章を1冊の本にまとめるため、同

一人の書いた言葉や文字の使い方も変化が見られた。そこで同じ言葉の送り仮名や漢字の統一に注意した。その他頁数が多いので、友人からのアドバイスによつて、ガンダレ製本にしたのも良かった。このように経過を経て妻の遺稿集が予想した以上に立派に、しかも予算内で出来上がった。最後に成ったが、特に御社のA氏の厚意あるサポートを心から感謝したい。

### 基礎講座(パート)募集

- 1 初心者が組版するときの注意点 (講義的な話).....一時間
  - 2 簡単にできる手作り本 (実演あり).....三十分
  - 3 テーマに関する質疑応答.....三十分
- 場所 交友プランニングセンター内  
 日時 平成十八年十月十九日(木曜日) 午後一時~三時まで  
 講師 愛原豊先生  
 費用 無料

- ・前回不参加の方々もどうぞ。
- ・出席者には、本作りに関する冊子を進呈します。

### シニア向け

### パソコン教室募集

- 場所 交友プランニングセンター内
- 電話(〇七八)二二二・四八八六
- 日時 毎週月曜日 午後一時~三時
- 費用 一、五〇〇円(一回)(マンシマンです)

自費出版問答 ー ー

## 締め切りが 原稿を作る

藤井昭三

原稿を書いてきて下さい、とお願いと大抵の方が「いつまでに」とおっしゃる。今月の終わりまでにと答えると、その日から心の中が急に重くなる。書いてみようと思う気が働くからである。

まあ、何とかなるだろうと、思ううちに2〜3日はすぐ暮れてしまつた。

心に宿題を抱いていると、見る物聞くものに平素考えたことのない関心が起こる。

本当は、このときに材料を選んだり、何を話題の中心に据えようかと考えたり、話題をどの順にならべていくか、おしまいをどうまとめるか、などを行ったり来たりしながら、頭の中で積んだり崩したりしている。

あげくの果てに、月末でなかつたら何とかなりそうな予感もする。

このとき、連絡が入り、締め切りは一カ月延びたと知れたら、その日の夕方の空の色のなんとすばらしいことか。夕食のうまいこと。

幸せとはいついつとことではないか。

さて、来月の今ごろになると、再びおなじ苦しみが目の前に。

いつかは、じぶんで纏めてみようと思か心に抱いている人も、いつかを決めなくては、全く何も考えなかつた人と同じである。

いまは忙しいから書けないというならば、家族中がのんびりと休暇を楽しんでいる正月休みや、お盆の休みに、あなたは原稿用紙に向かう勇気がありますかと問いたい。

なければ「自分をゴマ化している」だけのことである。

忙しいから書けないというのは、言い抜けである。原稿は多忙なときほどすらすらと書ける。多忙に追いこまれると精神が高揚するから、かえって原稿がすらすらと進む。

私の「文章教室・自分史教室」でも隔週毎に締め切りがあるので、この締め切りを逆に利用して、自分史を出された方が多数ある。3年もつづけると原稿量もかなりのものが積み上がる。

原稿も大体揃つたので、そろそろ本にしようかという段階になって、半年ほどの入院があった。出て来たときのAさんは軽い認知症であった。

彼はかなり長く原稿の書き溜めができていた

ので、奥さんが本にまとめることを熱望された。教室の同期生が協力して出版することになり、彼の家族やお孫さんにも力を借りて、とうとう今までに余り例を見ないユニークな自分史を完成することができたという。

出来上がった自分史を見て

「これは、なかなかよく書けている」と、Aさんも、にこにこしておられるとのことである。

さて、正直にいつて、原稿は締め切りがあるから書けるのである。締め切りが原稿を書かせるのである。

いつの日か、すばらしい文章を書いてみたい。そういう経験のないひとが、ある日突然、他人のおどろくような文章が生まれたりする筈がないではないか。

自分に書ける文章を書けばよい。他人が読んで、その意味が理解できたらそれで十分である。それ以外に何が必要ですか、あなた。





# 今、話題の本をご紹介します！！

## インターネットで自費出版本を販売しています！

(好評販売中)

自費出版専門サイトを開設しております。当センターで制作された自費出版本をインターネット上で注文、購入出来ます。あなたもホームページで自費出版本を販売なさいませんか！

<http://www11.ocn.ne.jp/~kpc> E-mail [kpc@koyu-p.co.jp](mailto:kpc@koyu-p.co.jp)

(消費税込み・送料無料)

業績・研究成果



「わたしの学校経営」  
寺尾滋明著  
1,600円



「日本の銅像」  
前田重夫著  
2,500円



「漢字読み用例集」  
瀬田慶太郎著  
1,800円



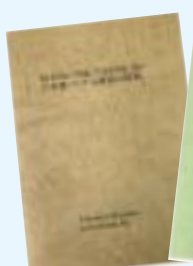
「神出むかし物語」  
(改訂増補版)  
藤井昭三著  
2,100円



「小学校絵を見て学ぶ国語教室」  
愛原 豊著  
1,500円



「世界の橋 見てある記」  
(改訂増補総集編)  
横山次郎著  
3,000円(送料有料)



「日本語ベトナム語面白辞典」  
1,155円  
「日本語モンゴル語面白辞典」  
1,260円 谷守正寛、他著



「三角縁神獣鏡と邪馬台国」  
碓井 洸著  
4,000円



「日本水鳥記器」  
宮永節夫著  
3,150円



「古代人の心で山名を読む」  
永田良茂著  
2,500円



「古代人の心で地名を読む」  
永田良茂著  
2,500円



「快老天国」  
福智 盛著  
1,680円



「溪流彷徨」  
游 魚人著  
1,800円



「絵筆片手に」  
知念正文著  
1,470円



「阪神大震災を越えて」  
綱 哲男著  
1,200円



「ぶらり歴史散歩」  
田中安夫著  
1,200円



「プラハ有情」  
田中安夫著  
1,000円

紀行文・エッセイ



「余白のうめ草」  
島田喜十郎著  
1,470円



「大震災名言録」  
藤尾 潔著  
580円



「日本らしい構造」  
加藤隆一著  
1,200円



「モンゴルの青い空」  
藤井昭三著  
1,470円



「私の兵庫百山」  
松川良衛著  
1,600円



「初めて見える風景」  
杉山忠雄(湊州)著  
1,200円

川柳句集・小説

「ひよこ」  
竹井紫乙著  
2,000円

「一椀の詩」  
梶原サナエ著  
2,500円

画集・写真集・絵本

「自選画集」  
森下哲也著  
2,000円

「新しい古窯」  
山根 毅著  
2,800円

「兵庫運河スケッチ画集」  
藤崎 實著  
2,000円

その他

「懐かしの絵ハガキ聚」  
PART5  
中右 瑛著  
各 1,500円

合同年刊誌  
「ふぉーらむ」9号  
交友プランニング発行  
1,500円

「赤い絆」  
太田 悠著  
1,200円

「蘇えるもの」  
西坂幸人著  
1,500円

「色即是空」  
佐武 寛著  
1,200円

**第5回日本自費出版フェスティバル開催**

とき 二〇〇六年七月十五日  
ところ 東京都千代田区九段北四一―二五  
アルカディア市ヶ谷(私学会館)

日本自費出版フェスティバルは、自費出版の著者と製作、流通を担う者のふれあいの場です。「第9回日本自費出版文化賞」入賞者の表彰式が行われ、又記念講演「自分史と三浦綾子さんのこと」と題して、著名な藤田敬治氏(NHK文化センター自伝史講師・元主婦の友編集長)の編集者としての姿勢と感動的なエピソード等、大変貴重なお話を拝聴した。

**第7回京都自費出版フェア**

とき 二〇〇六年七月二十一日―二十六日  
場所 京都市醍醐交流会館  
企画展 伴侶の死…残されて生きる…  
講演「自費出版と私」中山千夏氏  
交友プランニングセンター・友月書房からも関係の書籍を出展した。

**第4回わくわく関西自費出版フェア**

とき 二〇〇六年八月二十五―三十一日  
場所 ジュンク堂書店大阪本店3階

GALLERY FORUM 報告

ギャラリーフォーラム



東京：アルカディア市ヶ谷

**第4回交友クラブバス一日旅行  
研修会アンケート結果報告**

日時 未定(平成十九年五月頃)  
行き先 コース・西播磨方面



平成 18年 9月 7日 東急インにて

**第5回交友クラブ交流会開催**

とき 二〇〇六年九月七日(木曜日)  
場所 神戸三宮 東急イン三階

交友プランニングセンター・友月書房から、話題の本を出展し、数点売れた。

今年は交流会結成五周年、情報誌発行十周年、プランニングセンター・友月書房開設二十周年を記念して、当店発行の「話題の本」「文化賞入選作品」の展示、会員による「絵画・写真の小品展」、藤井昭三・高原俊吉先生の狂言「柿山伏」を公演。狂言は皆様に特に好評であり、先生方には厚く御礼申し上げます。併せて表彰式も行つた。

# 近刊本紹介

- 『お父さん お母さん すてきな人生をありがとう』 小池真佐子著 平成十八年七月一日発行
- 『晴れた旅の日に』 安東謙一郎著 二〇〇六年七月一日発行
- 『新聞に載ってのせられまた七年』 朝日新聞入選川柳 第一句集』 安東弘恵著 平成十八年七月一日発行
- 『手』 村井 勝著 平成十八年七月発行
- 『佐治實然の生涯』 松岡秀隆著
- 『赤い絆』 太田 悠著 二〇〇六年八月二十八日発行
- 『ねこいたち』 大段シズ子著 二〇〇六年八月吉日発行
- 『鬼の履歴書』 八瀬 久著 二〇〇六年九月九日発行
- 『蓮如上人の和歌評釋』 松岡秀隆著 平成十八年九月十五日発行
- 『蓮如上人の門弟の人々』 松岡秀隆著 平成十八年九月十五日発行
- 『花鏡』 十月号 花鏡短歌会編集・発行 平成十八年七月一日発行
- 『ちぬの海』 第二一八号 ちぬの海短歌会編集・発行 平成十八年七月一日発行
- 『世界に誇る 快老天国』 福智 盛著 平成十八年七月二十二日発行
- 『ねこいたち』 二〇〇六年八月吉日発行
- 『ちぬの海』 第二一九号 ちぬの海短歌会編集・発行 平成十八年八月十五日発行
- 『赤い絆』 二〇〇六年八月吉日発行
- 『ねこいたち』 二〇〇六年八月吉日発行
- 『蓮如上人の和歌評釋』 松岡秀隆著 平成十八年九月十五日発行
- 『蓮如上人の門弟の人々』 松岡秀隆著 平成十八年九月十五日発行
- 『花鏡』 十月号 花鏡短歌会編集・発行 平成十八年十月一日発行
- 『お父さん お母さん すてきな人生をありがとう』 小池真佐子著 平成十八年七月一日発行
- 『晴れた旅の日に』 安東謙一郎著 二〇〇六年七月一日発行
- 『新聞に載ってのせられまた七年』 朝日新聞入選川柳 第一句集』 安東弘恵著 平成十八年七月一日発行
- 『手』 村井 勝著 平成十八年七月発行
- 『佐治實然の生涯』 松岡秀隆著
- 『赤い絆』 太田 悠著 二〇〇六年八月二十八日発行
- 『ねこいたち』 大段シズ子著 二〇〇六年八月吉日発行
- 『鬼の履歴書』 八瀬 久著 二〇〇六年九月九日発行
- 『蓮如上人の和歌評釋』 松岡秀隆著 平成十八年九月十五日発行
- 『蓮如上人の門弟の人々』 松岡秀隆著 平成十八年九月十五日発行
- 『花鏡』 十月号 花鏡短歌会編集・発行 平成十八年十月一日発行

## あなたには あなたの 歴史があります

# 自分史

## はあなたの生きた証です

### 自分史づくりをあらゆる面から お手伝い致します

明治・大正・昭和・平成と、近代日本の一四〇年は、文字どおり激動の時代でありました。この時代に生を受け、この時代を生きた人々の歴史は、それぞれに宝のような存在です。

あなたご自身の軌跡はいかがでしようか。時代の激しい大波の中で、実に様々な曲折浮沈の体験を積み重ねてこられたことでしょうか。

お子さんやお孫さん達、後輩達、若い人達に、「これだけは伝えたい」、「これだけは覚えて欲しい」というお気持ちがあることではないでしょうか。

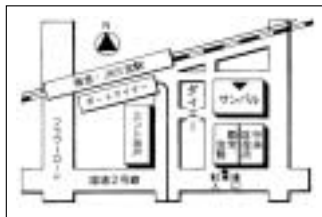
書くことが苦手。記録の整理が大変…そんな障害は軽く越えられます。本づくりのペテランが、ちょっとお手伝いするだけで、あなたご自身の生きた証が、立派な本となって誕生するのです。

本社 交友印刷株式会社

TEL ( 078 ) 303 - 0088  
 FAX ( 078 ) 303 - 1320  
<http://www.koyu-p.co.jp>

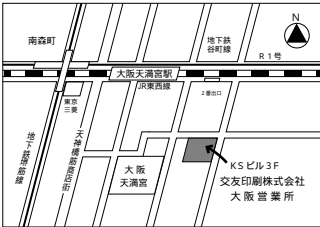
### 休日のお知らせ

- 10月 1(日) 5(木) 8(日) 9(祝) 15(日) 19(木) 22(日) 29(日)
- 11月 2(木) 3(祝) 5(日) 12(日) 16(木) 19(日) 23(祝) 26(日)
- 12月 3(日) 7(木) 10(日) 17(日) 23(祝) 24(日) 30(土) 31(日)



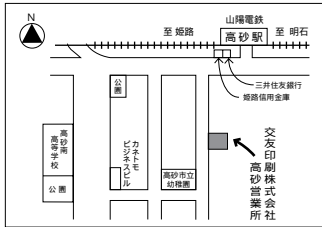
## GALLERY FORUM

交友プランニングセンター  
 〒651 神戸市中央区雲井通5丁目3-1  
 サンバルビル 2F  
 TEL ( 078 ) 221 - 4886  
 FAX ( 078 ) 221 - 4887  
<http://www11.ocn.ne.jp/kpc>



大阪プランニングセンター

〒530 大阪市北区東天満1丁目12番13号  
 -0044 KSビル3F  
 TEL ( 06 ) 6242 - 8875  
 FAX ( 06 ) 6242 - 8876



高砂プランニングセンター

〒676 高砂市高砂町鍵町772番地  
 -0066 TEL ( 079 ) 442 - 3426  
 FAX ( 079 ) 444 - 2117

### 休日のお知らせ (本社・高砂・大阪)

- 10月 1(日) 7(土) 8(日) 19(日) 23(祝) 26(日)
- 9(祝) 15(日) 21(土) 12月 2(土) 3(日) 10(日)
- 22(日) 28(土) 29(日) 17(日) 23(祝) 24(日)
- 11月 3(祝) 4(土) 5(日) 30(土) 31(日)
- 11(土) 12(日) 18(土)